

## 平成 26 年度 タンチョウ 傷病 個体 收容 結果

表 2 平成 12～26 年度 タンチョウ 傷病 個体 收容 結果

年度 (平成)	交通 事故	列車 事故	電線 衝突	不明 衝突	スラ リー等	フェン ス等	他事故	栄養不 良・衰弱	疾病	中毒	同種 闘争	捕食・ 襲撃	その他	不明	(羽)		收容個体数
															死体	生体	
12	8	2	5	1				4			1			1	14	5	19
13	3	1	4	3			2	1		1			2	6	15	7	22
14	4	4	14	3		1		2		2	3	1	2	1	22	12	34
15	2	3	10	3	1	4	1			1				3	18	10	28
16	2		12		1	1			1			1	1		8	10	18
17	3	3	11	3	2	2	1	1	1		2	1		4	16	12	28
18	3	4	6	3	2	1	1	1			1	1	1		12	9	21
19	5	2	10	1	1	2	3	2	1	2	1	2		6	24	11	35
20	6	4	12			3	3	1			1		2	2	18	13	31
21	4	2	6	3	3	1	1	2			4	2	1	2	15	13	28
22	2	6	5	2	2	2		5	1			1		5	17	8	25
23	6	2	5	3		1	1	1			1	1		1	11	10	21
24	4	7	5	1	3	1		2	1		1	1			14	11	25
25	5	2	6	5	1	1	3	3	6		2	1	1	2	19	11	30
26	10	2	6		1	2	2	2	1		2				12	12	24
計	67	44	117	31	17	22	18	27	12	6	19	12	10	33	235	154	389

※1 表中のデータは要因分析のためのデータが比較的そろっている平成12年度からとした。

※2 各要因別の收容件数の合計が收容個体数を上回る年があるが、これは複数の要因が考えられる收容個体があるため。

平成12年度：栄養不良と不明衝突が1羽、同種闘争と栄養不良が1羽、電線衝突と栄養不良が1羽

平成13年度：不明衝突とその他が1羽

平成14年度：他事故と栄養不良が2羽、電線衝突と交通事故が1羽

平成16年度：電線衝突と疾病が1羽

平成17年度：不明衝突と疾病、フェンス等と栄養不良、他事故とスラリー、電線衝突と交通事故、不明衝突と同種闘争、電線衝突と捕食襲撃それぞれ1羽ずつ計6羽

平成18年度：電線衝突と栄養不良が1羽、不明衝突と捕食襲撃が1羽、他事故とフェンス等が1羽

平成19年度：不明と捕食襲撃が1羽、他事故と捕食襲撃が1羽、不明衝突と栄養不良が1羽

平成20年度：他事故と栄養不良が1羽、電線衝突と他事故が1羽、電線衝突と交通事故が1羽

平成21年度：スラリーと捕食襲撃が1羽、他事故と栄養不良が1羽、電線衝突と同種闘争が1羽

平成22年度：フェンス等と栄養不良、不明衝突と栄養不良、交通事故と栄養不良、栄養不良と列車事故、電線衝突と栄養不良、不明衝突と疾病それぞれ1羽ずつ計6羽

平成23年度：フェンス等と栄養不良が1羽

平成24年度：フェンス等と疾病が1羽

平成25年度：電線衝突と同種闘争が1羽、栄養不良と疾病が2羽、他事故と疾病が1羽、電線衝突と疾病が2羽、不明衝突とその他が1羽、不明衝突と栄養不良が1羽、計8羽

平成26年度：電線衝突と栄養不良が1羽、同種闘争と電線衝突が2羽、他事故と栄養不良が1羽

※3 「他事故」としては、ゴム栓などが嘴にはまってしまう事故や側溝などへの転落事故がある。

※4 「フェンス等」としては、有刺鉄線、電気牧柵、シカ除けネット、シカ除け柵などの絡まりがほとんどであるが、そのほかフェンス衝突が2例ある。

※5 「スラリー等」とは、酪農業で設置している牛のふん尿貯めのタンクにタンチョウが誤って落ちてしまったものである。

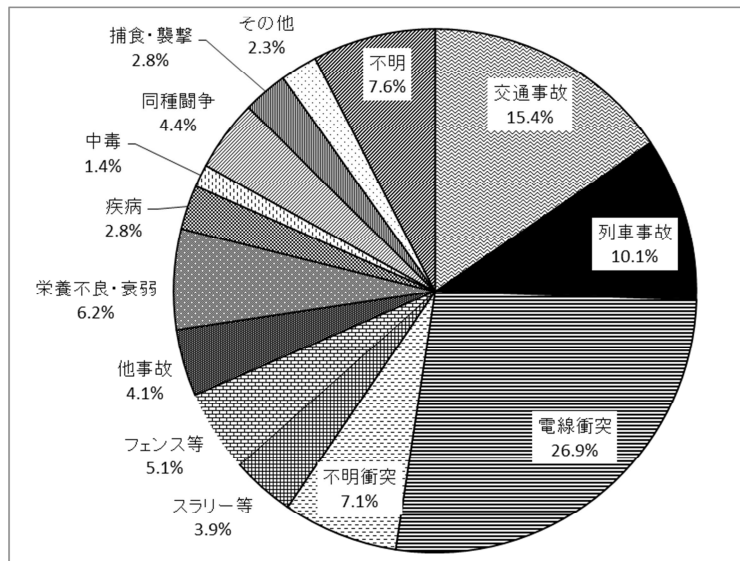


図3 タンチョウ收容要因別割合 (H12-26年度)

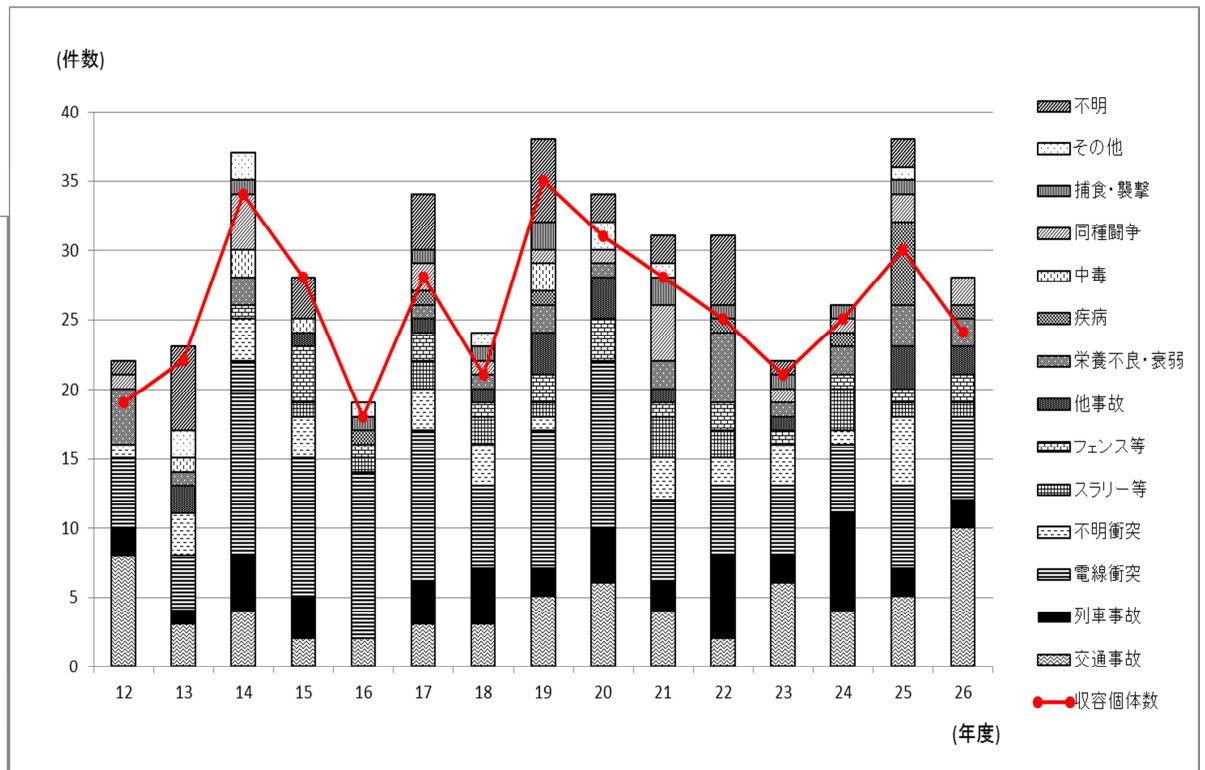


図4 タンチョウ年度別收容件数 (H12-26年度)